

瑞穂小学校金管部は昨年11月「千葉県管楽器合奏フェスティバル」で最優秀賞に輝き、2月10日開催の「全国小学校管楽器合奏フェスティバル東日本大会」に出場します。

文化協会は、これを祝し、部員たちの励ましを兼ねて受

瑞穂小学校金管部の演奏と津軽三味線を聴く会



賞曲の演奏を聴き、あわせて南横川在住のK.A.N.E.O. 96-1-14 (かねお・くろいし)さんの津軽三味線演奏を聴く会を開催します。

96-1-14さんは平成22年「津軽三味線日本一シニアの部」で全国優勝した方です。

ご来場をお待ちしています。

▼日時 2月22日(土)10時開会

▼会場 瑞穂小学校体育館

▼その他

- ・入場無料
- ・駐車場に限りがありますので、できるだけ乗り合わせでお願いします。

▼市文化協会事務局/足立

☎(72)7519

▼生涯学習課生涯学習班

☎(70)0380

中部コミュニティセンター 成果発表会

華道・パッチワーク等の作品を展示発表します。

▶日時=2月22日(金)~24日(日) 9時~16時30分

※最終日は15時まで

▼会場 中部コミュニティセンター

☎(73)3337



市美術会員が自信作を出品する市ふるさと美術展が開催されます。会場には絵画、彫刻、工芸、書道など多彩な作品が展示されます。

▼日時 2月16日(土)~24日(日) 9時~17時 ※最終日は16時まで

▼会場 保健文化センター3階ホール

▼生涯学習課生涯学習班

☎(70)0380

早春のイベント

ウォークラリー大会 (青少年のつどい山武地区大会)

地域の文化と自然をめぐるウォークラリーに参加しませんか。

▼日時 3月23日(土)8時~8時30分受付

※雨天の場合は、24日(日)に順延

▼集合場所 東金文化会館

☎(70)0380

第18回大網白里市 ふるさと美術展



▼参加部門 小学生の部(4~6年生)、中高生の部(中学生・高校生)、ファミリーの部(子どもおよび保護者または引率者)

※各部門とも3~4人で1パーティ(チーム)を構成しての参加

▼申込方法 中央公民館・中部コミュニティセンター・白里公民館に備え付けの申込用紙に必要事項を記入のうえ、生涯学習課に申し込み

▼申込締切 2月22日(金)

▼主催 山武地区青少年相談員連絡協議会

▼生涯学習課生涯学習班

☎(70)0380

市制施行をみんなで祝おう 「ベートーベン第九演奏会」

▶日時=4月14日(日)14時開演(13時30分開場)

▶会場=大網白里アリーナ

▶出演=市民合唱団、茂原交響楽団、大網中学校吹奏楽部

▶申込方法=チケット予約販売(1,500円)

※購入希望の方はNPOミュージックカフェに問い合わせください

▶その他=当日のボランティア(受付・駐車場・会場案内ほか)を募集しています。ご協力をお願いします。

▼申込方法 中央公民館・中部コミュニティセンター・白里公民館に備え付けの申込用紙に必要事項を記入のうえ、生涯学習課に申し込み

▼申込締切 2月22日(金)

▼主催 山武地区青少年相談員連絡協議会

▼生涯学習課生涯学習班

☎(70)0380

第7回文化祭 「スマイル・スマイルin白里」



白里公民館で活動している、教室・同好会・サークル等の発表会を開催します。

▼日時 2月23日(土)・24日(日) 9時30分~16時

※最終日は15時まで

▼会場 白里公民館

☎(71)2172



大網白里 「五十八年の歩み」最終回

平成二十四年十二月二十八日、大網白里町を閉じるにあたって、金坂昌典町長(当時)が「ふるさと大網白里のさらなる繁栄と創造」への決意を述べ、閉町を宣言し、大網白里町は五十八年の歴史に幕を閉じました。しかし、今日に至るまでには、先人のまちづくりへの情熱と苦勞の積み重ねがありました。

都市計画と生活環境の整備



▲都市計画の縦覧図面(昭和58年当時)

町の人口増加は、昭和五十年代から加速するのですが、その弊害として、急激な宅地造成による環境の悪化の懸念が、さまざまな問題が出てきました。その対策として、昭和五十五年四月に策定されたのが、「明るく、豊かな、住みよい田園文化都市」を基本理念とした「大網白里町基本構想」です。これを受けて町は、秩序ある都市の発展を目指すため、都市計画の方針を打ち出し、昭和五十八年五月二十四日に市街化区域と市街化調整区域に土地利用を分ける「線引き」をおおむね国道128号線より千葉市側の町西部地域において決定しました。その後、平成元年十二月十九日に全町に都市計画区域を拡大していきました。

この都市計画の決定は、町にとって大きな出来事であり、その後の町の政策の基本となる決定でもありました。現在、多くの方が住んでいる「みやこ野・ながた野・みずほ台・季美の森・みどりが丘」は当時の「五団地構想」に基づく都市計画により実現していたのです。

急激な人口増加は、生活排水の増加など、周辺環境の悪化をもたらしました。このため、生活排水を処理する施設整備が急務となりました。公共下水道事業により四木地区に建設を進めていた浄化センターが平成三年三月に完成し、続いて八月にポンプ場、主要な幹線管渠が完成したことで、念願の下水道の供用が開始されました。また併せて、小西・南横川地区を対象とした農業集落排水施設や弥幾野地区を対象としたコミュニティプラント施設、合併浄化槽補助事業など小規模な浄化施設による排水対策を実施し、生活排水による生活環境の悪化は次第に解消へと向かっていきました。

大網白里の未来像「アーバンオアシス」

時代が昭和から平成に変わると町の将来像を描く計画にも変化が見え、平成三年に策

定された「大網白里町 新総合計画」の中には目指すべき十年後(平成十二年、西暦二〇〇〇年)の未来像として「アーバンオアシス」というキャッチフレーズが打ち出されました。「アーバンオアシス」とは、「都市機能と自然が融合、調和したまちであり、さらには、首都圏(アーバン)の中にあつての、オアシスとして位置付けることのできるまち」をイメージしたものでした。この策定は、平成二年三月、京葉線東京駅直通快速が大網駅に乗り入れ、都内への通勤・通学が更に便利になった直後の出来事でした。

また、平成二年には朝市がスタートし、三年に役場分庁舎の完成、四年に「ファミリー大網白里ショッピングセンター」の開店、六年には町制四十周年を記念して町の花「コスモス」の制定、シンボルキャラクター「マリン」の誕生、分庁舎のカウンターのモニュメントの設置など、「大網白里」のイメージが形成されたのもこの時期と言えます。

このような積み重ねを経て、わがふるさと「大網白里」は平成二十五年一月四日の開市式において、金坂市長から「住みたい・住み続けたいまち」として成長していく思いを込めて「大網白里市」の誕生が高らかに宣言されました。

生涯学習課生涯学習班